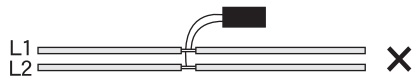
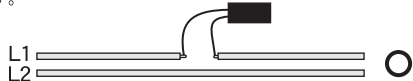


UT-600は電話回線にワニロクリップで接続するUHF電話用発信機です。電話回線を通る電気を電源として利用するため電池などは不要です。

電話線はL1・L2の2本の線で構成されますが、どちらか1本を切断し、UT-600を経由して接続する形で接続します。L1・L2をUT-600でつなげるような接続は間違いです。



原理としては家の電話機から電話局の交換機までどこに接続してもOKです。電話機の内部でもOKです。

ただし、こういった使い方ができるのは従来のアナログ回線の電話の場合に限られます。

ADSL回線の場合

ADSL回線の場合は、電話線がスプリッターで電話に向かう線(分岐電話線)とPC(分岐PC線)に向かう線に分けられます。この**分岐電話線**(右図の太い線)か、電話機にUT-600がセットできます。ただし最近の電話機はほとんど内部に空きスペースがありません。

分岐PC線に付けるとUT-600が機能しない、あるいはネット接続に支障が出ます。また**スプリッター以前に付けるのも不可**です。音に雑音が目じり、ネット接続に支障が出ます。

スプリッター部にはPHONEとMODEMの記載がありますが、PHONEに接続されているのが分岐電話線、MODEMのコネクタ接続されているのが分岐PC線です。

光ファイバー回線の場合

光ファイバー回線の場合は光電話ルータで、電話に向かう線(分岐電話線)、PCに向かう線(分岐PC線)に分けられます。

分岐PC線には「LAN」、分岐電話線には「電話機1・

UHF電話用発信機 ワニロクリップ接続型 UT-600



130307E

UT-600のスペック

- 外寸 / 20×39×19mm・ワニロクリップ20cm●重量 / 9g●電源 / 不要
- 送信チャンネル / UHF帯A・B・Cの3種類●製品構成 / 本体

電話機2」といった表示があるはず。光でTVの配信を受けている場合はテレビに向かう線(分岐TV線)もあります。

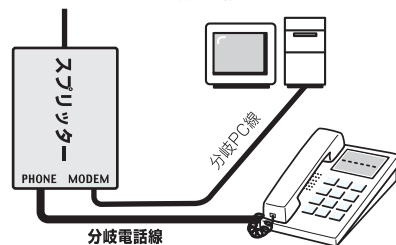
ADSLの場合と同様に、UT-600を付けることができるのは**分岐電話線**および電話機です。

ISDN回線の場合

電話線はターミナルアダプタにつながっていて、分岐電話線と分岐PC線があります。前記の2つ同様、分岐電話線かそれにつながれた電話機が接続ポイントになります。分岐電話線にちゃんと接続しているのに発信しない場合があります。これは分岐電話線の電気が電話機1台用になっているためです。この場合、対処方法はなりません。

なおアナログ回線、ADSL回線、ISDN回線とも回線自体は同一で回線だけを見ても識別はできません。

ADSL回線の場合



光ファイバー回線の場合

